

□ : 山口県で陽性が確認されたもの

7 ふれあい動物^{※1}の調査結果

検査対象		感染症名	検査方法	実施年度	陽性/ 検査件数	検出率 %
大型動物 ※2	糞便	サルモネラ症	細菌培養	H25～26	5/39	12.8%
	口腔		細菌培養		2/39	5.1%
	糞便	腸管出血性大腸菌感染症	細菌培養	H25～30	50/118	42.4%
	口腔		細菌培養		4/118	3.4%
	糞便	クリプトスポリジウム症	病原体検出	H26～27	0/59	0.0%
	糞便	ジアルジア症	病原体検出	H26～27	0/59	0.0%
小型動物 ※3	尿	レプトスピラ症	遺伝子検出	H28～30	0/82	0.0%

※1 ふれあい体験実施施設で飼養されている動物

※2 ふれあい動物のうち、ウシ、ヤギ、ヒツジ等の動物

※3 ふれあい動物のうち、ウサギ、モルモット等の動物

日本であったこんな話

狂犬病

海外でイヌに咬まれて感染したヒトが、日本に帰国・入国後、発症して死亡

日本紅斑熱

マダニに咬まれて発症。温暖な西日本に多く、春と秋が発生のピーク

オウム病

展示施設の従業員や来場者で集団発生。換気口内で乾燥した汚染ハト糞が施設屋内に飛散して集団感染。

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

発症したイヌ、ネコから飼主や獣医師が感染発症して弱った野良ネコからの感染もある

レプトスピラ症

感染ネズミの尿で汚染された池や川で水遊びをして感染し、発熱

エキノкокクス症

感染 20 年後に肝臓癌と間違われて感染発覚

腸管出血性大腸菌感染症

ふれあい動物施設の来場者が集団感染

サルモネラ症

ペットのミドリガメやイグアナ等のは虫類から子供が感染し、重症に

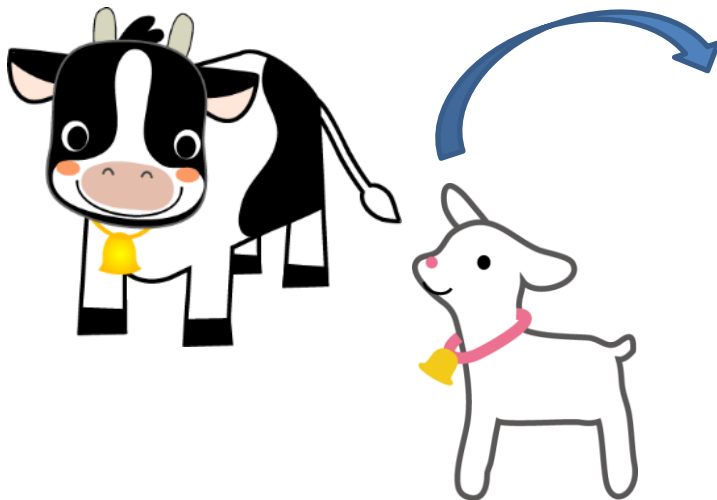
Q熱、パツツレラ症、猫ひっかき病、カプトサイトファーガ感染症、コリネバクテリウム・ウルセランス感染症

イヌ、ネコがふつうに持っている病原体で、過度の密接な接触によって感染

結核

動物園のサルが感染し、安楽死処分飼主からペットのイヌが感染したケースも

注意を要する感染症（ふれあい動物：ウシ、ヤギ、ヒツジ）



唾液、糞便を介した感染

サルモネラ症

〈症状〉

- ・腹痛、下痢、嘔吐などの食中毒症状
- ・まれに、高熱、頭痛、意識低下、けいれん等の重篤な症状を呈することがある

腸管出血性大腸菌感染症

〈症状〉

- ・腹痛、下痢、嘔吐などの食中毒症状
- ・重症化すると、激しい腹痛と血便を主症状とする出血性大腸炎を呈する
- ・まれに溶血性貧血、血小板減少及び急性腎不全を3主徴とする溶血性尿毒症症候群（HUS）を併発し、死亡することもある

- 多くのふれあい動物から腸管出血性大腸菌が検出されています。
動物とふれあった後は、必ず手洗いなどをしましょう。

予防方法

- 動物の糞便を適切に処理する。
- 動物との過剰なふれあいを避ける。
- 動物と接触した際には、手洗いを励行する。
- 幼児等が動物に接触する場合は、監督者による監督のもとで行わせる。



コラム

酪農体験イベントで発生した0157の集団感染

2009年9月、酪農関係団体が主催する消費者交流イベントの参加者から0157患者が発生しています。患者は、いずれもふれあい体験に参加しており、会場内の子牛にふれた手を介して経口感染したと見られています。

動物にふれた後は、必ず手洗いをして感染予防に努めましょう。